

【研究紹介：国外学術誌掲載論文から】

オリンピック空間の概念化：2020 東京大会の オリンピック教育を巡る思考，結果，行動

Geoffery Z. Kohe¹⁾, 荒牧 亜衣²⁾, 関根 正美³⁾, 舛本 直文⁴⁾, 許 立宏⁵⁾

¹⁾ University of Kent, UK.

²⁾ 武蔵大学

³⁾ 日本体育大学体育スポーツ科学系

⁴⁾ 首都大学東京

⁵⁾ National Taiwan University of Physical Education and Sport, Taiwan

掲載誌：

Geoffery Z. Kohe, Ai Aramaki, Masami Sekine, Naofumi Masumoto and Leo (Li-Hong) Hsu (2021, Feb.), *Conceptualising *l'Espace Olympique*: Tokyo 2020 Olympic education in thought, production and action*, *Educational Review*, Online published 2021: Online Journal 1–27.

doi: <https://doi.org/10.1080/00131911.2021.1874308>

Keywords:

Olympic education, Tokyo2020, Japan, Lefebvre, space

オリンピック教育, 2020 東京大会, 日本, ルフェーヴル, 空間

論文概要

オリンピック教育は、その教育的価値にも関わらず、IOCによって権力的に主導されているともいえる。本稿では2020年東京大会におけるオリンピック教育関係者の活動と関係性について、アンリ・ルフェーヴルの空間性概念を用いて考察を行った。本稿の問いは次の3点である。1) 様々な立場の関係者がオリンピック理念を共有する方法は何か、2) 教育成果を生むためにどのように関係者の協力が形成されたのか、3) オリンピック開催にあたって批判の機会はあるのか、である。結論は次の通りである。2020年東京大会オリンピック教育関係者の諸活動は、オリンピックに付与してきた価値すなわちスポーツと身体教育に結び付けられた青少年教育、道徳的発達、市民社会の発展などによって統一されていた。この道徳的価値によって様々なレベルの教育が結び付けられた。特に開催都市（東京）のオリンピック教育の事例は各関係者への呼びかけとして機能した。しかし、オリンピックの価値がIOCの独占物ではない以上、オリンピックに対する批判的思考が必要である。オリンピックムーブメントに対する批判的対話が開催地の関係者空間において必要であることが指摘された。